

Strategies for IELTS Reading

IELTS リーディングテスト対策



IELTS リーディングテスト概要

筆記テストの流れ

ペーパー版 : W(60分) ⇒ **R(60分)** ⇒ L (40分)

コンピュータ版: L (30分) ⇒ **R(60分)** ⇒ W(60分)

リーディングテスト 60分で40問, 3つのパッセージ

時間 60分	問題番号	40問
パッセージ 1	Question 1 - 13	13問
パッセージ 2	Question 14-26	13問
パッセージ 3	Question 27-40	14問

パッセージごとの時間配分 ◎基本は各20分

- 配点は各1点で40点満点
- パッセージが進むほど文章/問題ともに難易度が上がる。
- 本、雑誌、新聞から引用された文章で専門知識は不要。
- ペーパー版での注意:
リスニングテストでは、解答を解答用紙に転記する時間が10分間あるが、リーディングには転記時間はない。
問題を解きながら、解答用紙に答えを記入する。

バンドスコアの目安

バンドスコア	正解数	割合
4.5	13	33%
5.0	15	40%
5.5	19	50%
6.0	23	60%
6.5	27	68%

リーディングテスト 問題タイプ

各パッセージの設問は、2~3つのタイプの問題が出題される。

12タイプの問題があり、大きく2つに分けることができる。(数字は学習順)

難易度	質問の順番がパッセージに書かれている 順番通りのもの	質問の順番がパッセージに書かれていない 順番通りではないもの
★	1. 質問に短く答える問題	4. 表、ノート、フローチャート完成問題 5. 図表 (構造図)完成問題など
★★	2. TRUE / FALSE / NOT GIVEN問題 3. 文完成問題 9. YES / NO/ NOT GIVEN 問題 (順番通りでない場合もある)	6.特徴マッチング問題 7.情報マッチング問題
★★★	10. 文末マッチング問題 11. 多項選択式問題(1つ選択するもの)	8.見出しマッチング問題 11. 多項選択式問題 (複数選択するもの) 12. 要約問題 (記述/マッチング)

同じ問題タイプでも、パッセージの英文によって難易度は変わる

★★★ Y/N/NGと要約問題は、パッセージ3で出題されることが多い。

リーディングテストで目標スコアを取るための4つポイント

1. 難しいのが当然

- IELTSは、英検2級+& 程度からネイティブレベルまでを対象としたテスト。読めない文、できない問題が必ず含まれている。
- でも、IELTSはリーディングは、詳細を問われる問題が多い。そのような問題は、全体が分からなくても、設問と解答に必要な部分だけ読めれば得点できる。
- 目標スコアが5.5なら19問(50%) 6.5なら27問(68%)が取ればよいので、リラックスして取り組む。

2. 効率よく問題に取り組む

- 問題タイプに慣れて、効率よく解答する。
- できそうな問題とできそうでない問題を判断して、できない問題はすぐに諦めて次へ進む。
- パッセージ1から3へと一般に難易度は上がるが、すべてのパッセージに取り組む。

3. 演習と復習でスキルアップする

- 模擬試験などで演習をする。ただし、問題をやったあとは、答えの根拠を確認する。
- パッセージのすべての問題が終わったら、パッセージを通してすべて読んで、内容を確認する。はっきりと意味が取れないところは、解説を使って、和訳や単語を確認する。
- 解答に必要な部分は、単語や言い換え表現をしっかりと覚える。(同じような言い換えが頻出する)

4. 基礎英語力をアップさせる

- 設問文やパッセージの必要な部分が理解できない場合は、センター試験レベルの語彙や文法を単語集や文法書でやり直す。

Skills for IELTS Reading

リーディングに必要なスキル

1. 語彙
2. 文法
3. キーワードと言い換え表現
4. 効果的な読み方

重要スキル 1: 語彙

大学入試レベルの語彙力で目標スコアはクリアできる

- 解答に必要な部分の語彙は、大学入試レベル。
- 但し、しっかりとした知識が必要。特に、基礎的な単語とその類義表現をすぐに理解できることが求められる。
- 高レベルの単語があっても、パッセージの中で説明してあったり、基本的な単語の言い換えであることがほとんど。

※ライティングやスピーキングには、IELTSで頻出するトピックに関する語彙がある程度必要。

大学入試用の単語集などを使った語彙学習のポイント

- 単語は訳+イメージで覚える。フレーズや例文でイメージをつかむと、英語のまま瞬時に理解できるようになる。
- 類義語と派生語 (importance – important) も覚える。
- 品詞 (名詞、動詞、形容詞、副詞、その他) を確認する。特に動詞は、自動詞・他動詞を区別して、自動詞はフレーズで覚える。
- 正しい発音と強勢(アクセント)で覚える。発音記号を見ながら音声を確認して、「イメージしている音」と違うものは覚え直す。

語彙の言い換え例

(パッセージの文) There are people who do not like to show their weakness to others.
を好きでない を見せる 弱さ

= (設問文) Some people hesitate to reveal their personal vulnerability.
ためらう 明らかにする もろさ / 脆弱性

重要スキル 2: 文法

大学入試基礎レベルの文法力があれば構文は理解できる

- IELTS リーディングの文には、複雑な文構造のものはほとんどありません。但し、瞬時に正確に文構造を理解するための基礎力必要。
- 単語や熟語を自分でつなげて意味を読み取らない。
単語・熟語 + 文構造を理解して初めて正確に読める。
- 構文がすぐに把握できなかつたり、単語はわかっているのに意味がずっと理解できない場合には、文法の復習が効果的。

[Online IELTS Grammar Check Test](#)

高校英文法をさっと復習する

- ライティング・スピーキングでは、文法は評価の4分の1を占める
- 文構造の理解に必要な文法項目
 - 品詞、5文型
 - 名詞の固まり(不定詞・動名詞・間接疑問文、接続詞)
 - 形容詞の固まり(不定詞・分詞・関係詞)
 - 副詞の固まり(不定詞・接続詞・分詞構文)
 - 関係性を表す接続詞や接続表現<対照・例・列挙など>
 - 代名詞を正確に理解する

英文例

Consider also that the subconscious mind is continually problem-solving even while a person is sleeping so writing for twenty minutes prior to bedtime and thinking about the difficult bits before falling asleep might just induce the subconscious to resolve the issue overnight, the writer waking up with a fresh perspective in the morning.

英文例

Consider also / **that** the subconscious mind is continually problem-solving /even **while** a person is
～も考えなさい /ということ / 潜在意識が、絶えず問題解決をしている / ～する間でさえ/ 人が眠っている

sleeping / **so** writing for twenty minutes prior to bedtime **and** thinking about the difficult bits **before**
だから、寝る時間の前に20分書いたり、 眠りに落ちる前に難しいことについて考えることは、

falling asleep / might just induce the subconscious to resolve the issue overnight, / the writer **waking** up
かもしれない / 潜在意識を仕向ける / その問題を夜の間解決するように。 / そして、書き手は起きる

with afresh perspective in the morning.

新鮮な考え方で / 朝になると

IELTSのリーディングでは、設問文のキーワードを目安にパッセージでその言い換えを探すことが、もっとも重要なスキル。

1. キーワードとは？

- それがなければ文の意味がわからなくなる単語や熟語
- 固有名詞や数詞(数字や年など)は、言い換えが難しいためパッセージの中で見つけやすいため活用しやすい
- 特に、「否定」の表現、[頻度/可能性]の表現、[比較]の表現を見逃さないようにする

否定: not/never/hardly/no + 名詞/few/little など

頻度: always /usually/often/sometimes
rarely/ never など

可能性: could/would/may/might/can/must など

比較: larger than /more often than/ as large as
no more than など

2. 言い換え表現とは？

- リーディング問題では、設問文のキーワードを理解して、それらに対応する文をパッセージで探す。ただし、設問文の表現とパッセージの表現は必ず言い換えられている。
- 言い換え表現は、必ずしも完全な一致ではなく、その文脈のなかでの「ほぼ同じ意味」
- 基本的に設問文のほうが抽象的・包括的で、パッセージのほうが具体的なことが多い(逆の場合もある)
- 言い換えの方法は、①類義語 ②派生語 ③文構造の変化 ④文全体での言い換え。または①～④の組み合わせ
- 最も重要なのは、類義語と派生語を知っていること。

言い換え表現に慣れるには、IELTSの問題をやりながら、気づかなかった言い換えを覚えていくことが効果的。(言い換えノートを作る)

重要スキル 4: 効果的に読む

1. パッセージのタイトルやサブタイトルから内容を予測する。
2. 設問文は構文を取ってよく理解して、「何を探さなければならぬか」を把握する。**(スキミング1)**
3. 設問文のキーワードを目安に、必要な情報を探してさっと読む。**(スキミング2)** 必要な情報が見つかったら、しっかりと読む。
4. パッセージはすべて理解できる必要はない。
5. わからない単語は「?」として扱って、可能なら文脈から推測する。推測できなくても、それ以外の内容をしっかり理解する。単語がわからないことで文全体を諦めない。
6. 前後の論理関係をつねに考えて読む。特に、
対照、列挙、理由、結果、情報の追加、例、類似、条件などを意識する。

トピックセンテンスとは？

- ・パラグラフの主旨を示す文。
特に見出しマッチング問題で必要となる。

スキミングとは？

パッセージの大意をつかむために素早く全体を読む方法。

- ・タイトル、サブタイトルを読み、パラグラフからパラグラフへと主旨を探しながら拾い読みする。
 - そのときには、文の意味を担う内容語(名詞と動詞)に注目する。
 - 文の主節だけを見て、関係詞節や副詞節は無視する。
 - 知らない単語があっても止まって考えない。

この講座では、問題を解くまえに全体をスキミングすることはしません。

理由1: 全体のスキミングはかなり難しく時間がかかる。

理由2: パッセージの答えのありそうな場所が予想できる問題が多い。
その場所を効率よく読んでいく。

理由3: 全体を理解しなければできない問題は後回しにして、それ以外の問題を先にやることで、そのパッセージを程度理解した状態でその問題に取り組むことができる。